

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	有田 栄
主な担当科目	音楽教養演習Ⅰ, 音楽教養演習Ⅱ, 音楽教養演習Ⅲ, 音楽美学, 西洋文化史Ⅰ, 西洋文化史Ⅱ, 音楽教養基礎, 音楽芸術運営基礎演習, 博士音楽美学特講Ⅱ
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	学部・短大においては、学生の多様な背景を考慮してきめ細かく指導を行い、学生自身が学修へのモチベーションを保つことができるような工夫を試みる。大学院については、「専門性」に対する学生の意識を高めるために新しい知見を取り入れるとともに、研究倫理・職業倫理等に対する学生の意識を向上させる取り組みに力を入れる。とりわけ博士後期課程においては、自立した研究者としての自覚を促すための教育方法を徹底する。
2023年の教育に関する自己評価	学部・短大の教育においては、本年度は主要科目以外でも、必要な学生に対して授業外の補習を複数回実施した。また通年科目では中間の試験結果が後期のモチベーションに影響することから、中間段階で追試や再試を何度も行い、学修内容を定着させ、学修成果を「見える化」することに力を入れた。大学院では、修士・博士ともにより専門的な内容を積極的に取り上げ、学生が広い視野から自身の研究の展望を持つことができるように務めた。また本年度は学部・短大・院を通じて学年によらず学生の進路相談・学修相談が多く、できる限り丁寧に応じ、問題を学生と共に解決しようと試みた。
2023年のFD活動に関する自己評価	FD委員長としてFD活動に積極的に取り組んだ。全体FDとしては、現代の大学教員に必要な情報や職能開発、社会から求められる資質を常にリサーチし、研修会テーマ等として積極的に提案している。23年度は数年来懸案のジェンダーに関する研修を実施することができた。学内組織のFDとしては、教員相互の連携とコミュニケーションの向上に重点的に取り組んだ。
授業改善のために取り入れた研修内容	①「多様な背景を持つ学生が持続的に学べる学修環境を作るために——障がいのある学生への支援・関わりについて」から、障害を持つ学生が認知・認識しやすい授業の組み立て、必要な配慮についての知識。 ②学生課(現:学生生活支援室)による「多様な学生への対応について」

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1628 教員名:有田 栄

1)アンケート結果に対する所見

結果はおおむね予想通りである。現在担当している授業は多くが演習授業であるため、学生とのコミュニケーションはおおむね取れており、授業の狙いや、なぜそれを取り上げているかという意図を理解して受講してもらっていることができると思う。

かなり高度で難しい内容を教えている授業もあるが、そうした授業で良好な反応が表れているのは、教員の教授の巧拙の問題ではなく、学生自身が興味を持って学んでいるからだと思う。そのことは教員として非常にありがたく感じている。

2)要望への対応・改善方策

特に要望があったわけではないが、学生の多様化に応じて、ニュアンスの解釈を必要とする言い回しなどは避け、明確で端的な表現を心がけたいと考える。場合によっては、できる限り「やさしい日本語」も併用したい。言語表現があまりにシンプルで即物的になり過ぎると、科目によっては趣旨にそぐわない場合もあるが、現代の教育現場ではそれもある程度仕方ないと考えている。むしろ、それでも損なわれることのない本質的なことを確実に教授していきたい。

3)今後の課題

上記に述べたように、学部の授業の反応は学生たち自身の授業への取り組みや態度を反映していると思われるので、今後もさらに学ぶことへの意欲を高めるような授業方法を考えて試行錯誤していきたい。

他方で、大学院の授業のいくつかで学生が他人事のようなコメントをしているのが気になった。大学院は座して何かを教えてもらうところではなく、自ら学ぶところであるという当たり前のことを学生が十分に理解していないことも多分に要因となっていると思うが、やはり教員としてはそうした主体的な学びこそが学びだ、という雰囲気や授業の中に、また学生との日常の関わりの中に醸成していきたい。そのためには、大学院生に対しては時に厳格な態度も必要になるかもしれないと考えている。

以上